

狭山にゆかりのある文化人紹介 その13

しおのや へいぞう 酪農家 塩野谷平蔵

1885(明治18)年～1970(昭和45)年 享年84歳

1. 経歴・狭山市との関わり

入間郡下奥富村の塩野谷家の6男に生まれる。2才の時、父親とともに千葉県八街村へ移住。成人していた長兄(辰造)は家族と共に、北海道の旭川に移住した。学問に秀でた平蔵は、ノートをとらなくても記憶力は抜群と、後々語り草になるほど優秀な生徒だった。



2. 主な業績

まだ北海道の酪農が草創期だった明治時代、平蔵はホルスタイン牛の純粋種を北海道に普及させ、品種改良を重ねながら優秀な乳牛をつくり出すことに尽力した。誠実で真っ正直なその性格から、平蔵は「乳牛の使徒」と呼ばれ、多くの酪農家の尊敬を集めた。

★7年間のアメリカ留学

札幌農学校を卒業後、兄辰造の援助により先見の明をもってアメリカに渡り、酪農の技術習得に励んだ。後年、北海道の酪農家に良質のホルスタイン牛1万頭を斡旋し、半世紀以上にわたって普及に努めた平蔵の第一歩は、このアメリカ留学から始まった。

ワシントン州屈指の大牧場で、牛舎の清掃から牛の手入れ、エサの世話、母牛と生まれたばかりの子牛の世話、そして搾乳など、身を粉にして働いた。更にウイスコンシン州農科大学酪農科に学び、卒業論文で「今後の酪農に必要なのは良質な乳がよく出て、繁殖力にも優れた能力の高い純血種の普及にある」と結論づけている。

★ホルスタイン純血種の乳牛の導入・普及

大正2年(1913)、再度アメリカに渡り、ホルスタイン純粋種の牝牛10頭を購入して帰国し、手稲山の山麓に広がるなだらかな傾斜地に土地を購入した。その後も「牛を見ること神業に近い」と言われた平蔵はホルスタイン純粋種の普及に努め、戦時中の満州や朝鮮にも5千頭もの乳牛を斡旋している。



3. 特筆

戦後、平蔵は、全国酪農協会会長、日本ホルスタイン協会会長などの要職に就き、北海道だけでなく日本の酪農を牽引した。雪印乳業株式会社の初代副社長にも就任している。

現在、孫が経営する大牧場レークヒル・ファームが洞爺湖畔の丘の上にある。

文責：小川豊子

兄の辰造が寄進した上奥富「梅宮神社」の鳥居

編集後記

- ★新型コロナが三年目になっても収束せず各団体の行事も少ない中、「吉野弘の世界」朗読公演には思ったより大勢の来場者が。カメラ担当で客席の中には私には、会場の雰囲気良さが嬉しかった。
- ★狭山ゆかりの文化人紹介の塩野谷平蔵さん、実業家としても北海道酪農の先駆者だったと知り、縁あって道東の酪農地帯に時々行っていた私には驚きでした。
- ★私の所属する狭山市民謡協会では「民謡のつどい」を三年続けて中止と苦汁の選択。来年度はもう、ホール開催の体力、余力も心配に。高齢者には罪作りなコロナを恨みます。

(高沢正夫)